

# 高齢社会における排泄用具に対する意識調査報告

小嶋高良\*・安部信行\*\*

## Public Opinion Survey Report on Excretion Aids in an Aging Society

Koryo KOJIMA\* and Nobuyuki ABE\*\*

### Abstract

In our aging society with a declining birthrate, which faces increasingly serious problems, families with elderly people in need of nursing care are obliged to assume the physical and psychological burden of toilet care for elderly people using various excretion aids, such as diapers and urinals.

In order to develop excretion aids designed to protect the dignity of elderly people in the aging society of the future, we conducted a public opinion survey targeting citizens of Hachinohe who are potential users of these aids, with the aim of understanding their views on various excretion aids that they may have to use when receiving nursing care.

The results of our survey show that (1) although respondents recognize the need for excretion aids for those who are in need of nursing care (94.5%), they are less inclined to use such aids for themselves (58.3%). Meanwhile, if they should be faced with the need to use excretion aids when receiving nursing care, they would prefer to use (2) ordinary toilets (75.9%), portable toilets (55.0%), urinals and bedpans (35.2%), and diapers and incontinence pads (29.7%), in this order. If it is impossible to use their most preferred excretion aids, they are willing to use (3) portable toilets (81.3%), diapers and incontinence pads (67.0%), and urinals and bedpans (57.1%). The results indicated that (4) 90.2% of the respondents felt the need for developing new excretion aids designed to protect the dignity of elderly people in our aging society.

**Key words**: elderly people, people with disabilities, excretion aids, independence, dignity

### 1. はじめに

高齢社会に突入して、高齢者は多くの課題の中で、自立した生活を営むことも余儀無くされ、種々の対応もなされてきているが、少子化による高齢者の介護に関しては、さまざまな課題が浮き彫り化されてきており、ますます深刻化する社会になってきている。

例えば、下肢に障害を持ったり足腰が弱くなった高齢者、または認知症になり日常生活行為が上手にできなくなった高齢者は、少子化にある家族による排泄介護の必要性が迫られるが、介護者たる家族は、排泄介護に対して身体的・精神的負担や排泄物の独特な悪臭に強い抵抗感等を感じながら、オムツ・パッド類、尿器・差込便器類等をはじめ、さまざまな種類の排泄ケア用具を用いて排泄介護を行いもするが、介護保険等を利用して施設および在宅介護サービスを受けたりするような、他人に家族の介護を依頼しなければならないような社会になってきているということである。

一方、要介護者自身も家族・介護者等の他人の目が気になり、身体的負担にまして人間の尊厳性から精神的に大きな負担を感じ、排泄ができなくなってしまうこともあるのである。

本来、排泄行為の介護に介護者の他人の手を借りることは、要介護者にとっては非常に恥ずかしいことであり自尊心を傷つけられ、介護者はお互いに排泄介護をスムーズに行えるようにできる限り配慮し、コミュニケーションを取りながら、要介護者をリラックスさせることも大いに大切なことである。

また、排泄介護を受ける際、簡単な仕切り(カーテン等)等で少しの空間を作ることだけでも、要介護者にはとても気持ちが落ち着くとも言われていることである<sup>1)2)</sup>。

本調査報告「高齢社会における排泄用具に対する意識調査報告」は、人間の尊厳が守られながら排泄行為が行えるような自立生活支援排泄用具の開発を目指すものであり、八戸市民を対象とし、さまざまな介護の課題を抱える高齢社会に、自分自身が要介護者となり、排泄介護を受けなければならなくなった際に、排泄用具としてどのような排泄用具を使用したいと思っているのか、また、身体的状況等により、どのような排泄用具が使用されてもしよらないか等々の排泄用具に対する意識調査を把握することを目的として実施した調査結果について報告するものである。

### 2. 排泄用具

排泄は、日常生活の中で毎日繰り返される行為であるが、何らかの排泄介護が必要な状況になったとき、排泄

平成 21 年 1 月 6 日受理

\* 感性デザイン学科・教授

\*\* 感性デザイン学科・助教

表1 排泄用具の種類

NO.	分類	種類	特徴
1	便器・便座	洗浄便器, 補高便座, 昇降便座, ソフト便座	・トイレまで移動できる場合使用。 ・座位が取れる場合使用。
2	ポータブルトイレ	椅子型, コモード型, 標準型	・通常のトイレを使えるようになるまでの過渡的状态や種々の理由からやむを得ず利用するとの認識必要。 ・座位が取れる場合使用。
3	トイレキャリー	ポータブルトイレキャリー型, シャワーキャリー兼用型	・使用することにより通常のトイレで排泄することも可能。 ・座位が取れる場合使用。
4	収尿器	(a) 手持式 しびん, 受尿部・畜尿部別体型, 自動吸引型	・簡易に採尿でき, 介助力が不足の場合使用。 ・寝たきり, 座位がとれる場合使用。
		(b) 装着型 ベルト固定型, パンツ固定型, 陰茎固定型, 添付型	・姿勢や移動方法に依存しないので, 尿失禁, 常時尿が漏れる場合には最適。 ・寝たきり, 座位がとれる場合使用。
5	差込便器	ベッドパンタイプ, ゴム製, 小型差込便器, 座位用, 腰上げ不用型	・便座上で姿勢保持ができない人, 体幹を起こすことが禁忌な人が使用。 ・寝たきり, 座位がとれる場合使用。
6	オムツ	テープ式, ひょうたん型, フラット型, パンツ型	・自分でできる動作がほとんどない寝たきりの人, 尿意のない人, トイレに間に合わず漏れる量の多い人が使用。 ・寝たきりの場合使用。
7	パッド	フラット型, ギャザー型, コンパクト型, T字型, 多量吸収可能型	・大きなオムツを使用すると動作に制約があるので, 排泄のパターンをつかむような場合等に使用。 ・漏れ量に合わせた適切なパッドの選択が必要。 ・座位がとれる場合使用。

介護は人間の尊厳に関わる大きな課題と成り得るのである。

排泄介護は、その他の日常生活行為の介護などと比較すると、下記のような特徴がある<sup>3)</sup>。

- ① 人としての最低限の尊厳が守られるべき介護である。
- ② 昼夜にわたり毎日5～10回位必要な介護である。
- ③ 介護回数が最も多い、身体的・精神的負担の大きな介護である。
- ④ 排泄後の処理、用具の洗浄・管理等、後始末のことも忘れられない介護である。
- ⑤ 起居、移動、更衣等、他の日常生活行為との連続性がある介護である。
- ⑥ 健康維持、疾病治療等、医療的な側面と密接な関連がある介護である。

このような排泄介護の支援は、要介護者の自尊心を傷つけたり、羞恥心を伴うので、人間の尊厳に関わる課題と認識し、要介護者・介護者・家族の考え方を聴き、さまざまな介護方法と排泄用具を試しながら、現状を把握し、課題を分析し、介護する必要がある。

現在、市販使用されている排泄用具の分類・種類・特徴は、表1<sup>1)</sup>に示す通りである。

座位が取れる場合は、排尿や排便も仰臥位より楽な姿勢で行うことができる。

介護ベッドから離床・移動できる場合は、一般トイレの使用が可能である。

また、介護ベッドから移乗できれば、ポータブルトイレ、トイレキャリーの使用が可能となり、トイレキャリー

の使用が可能であれば、一般トイレの使用も可能となる。

介護ベッドから離床できない場合でも、座位で使用できる収尿器・差込便器もあり使用が可能となる。

寝たきりの場合は、排尿・排便は介護ベッド上が主となり、排泄姿勢は仰臥位（男性は側臥位も可能）が主となる。

尿意を伝えられない場合、排泄用具はオムツが中心となるが、排泄量によってはパッドで良い場合もあり、男性の場合には装着式収尿器の使用も考えられる。

尿意が伝えられる場合は手持式収尿器や差込便器が使用できるようになる<sup>1)</sup>。

### 3. 調査方法

#### 3.1 調査方法

調査方法は、面接によるアンケート調査方式を採った。アンケート調査用紙は、付録1の通りである。

#### 3.2 調査対象

調査対象者は、八戸工業大学学園祭に来訪し、感性デザイン学部感性デザイン学科福祉機器デザイン研究室展示会場に来場した八戸市の一般市民で、アンケート調査有効回答者数は91人である。

#### 3.3 調査期間

調査期間は、平成20年10月18日～19日の八戸工業大学学園祭の2日間である。

#### 4. 調査結果および考察

アンケート調査回答者の性別は、図1より、「男性46.2%」、「女性53.8%」で、若干、女性が多いが約半々程度で、男性、女性両性の排泄用具に対する意識を把握する上で妥当な割合になっていると判断しても差し支えないと思われる。

また、回答者の年齢層については、図2より、「40歳代以上」58.3%で、中高齢者が過半数を超えており、高齢社会における排泄用具に対する、使用者になり得る一般市民の意識を把握する上で、妥当な関心がある世代層となっていると、図1同様、判断しても差し支えないと思われる。

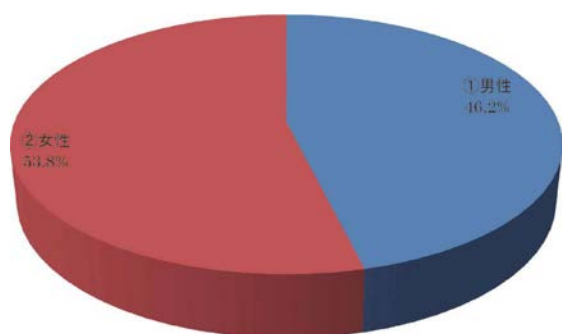


図1 あなたの性別は？

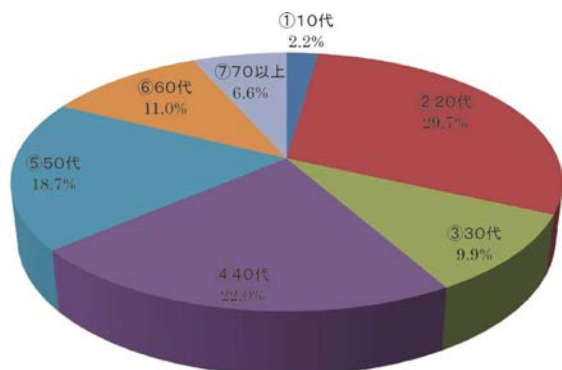


図2 あなたの年齢は？

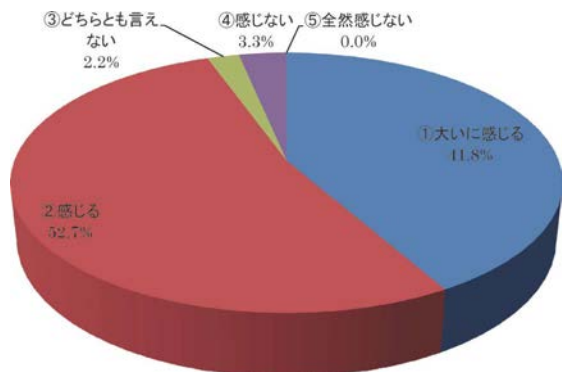


図3 あなたは高齢社会において、要介護者のための「排泄用具」の必要性を感じますか？

要介護者のための排泄用具の必要性については、図3より、「大いに感じる、感じる」94.5%と非常に大きく、これからの高齢社会の課題に対する不安感が如実に表れていると推察される。

必要性は高く認めながらも、自分自身が要介護者になった時、排泄用具を実際に使用したいと思うのかの問いに対しては、図4より、「大いに思う、思う」58.3%とかなり小さくなっており、自分自身は使用したくない「全然思わない、思わない」13.2%意識が表れており、まだ健常で現実感がなく「どちらとも言えない」28.6%が大きく表れている。

それでも、自分自身が要介護者になってしまい、介護者に介護されながら排泄用具を使用しなければならなくなった時に、介護ベッド上で常時身体に付ける「オムツ、パッド類」を使用したいと思うのかとの問いに対しては、図5より、「大いに思う、思う」29.7%、「どちらとも言えない」31.9%、「全然思わない、思わない」38.5%の順で、「オムツ、パッド類」に対する抵抗感が強く、人間としての尊厳感からも、できればあまり使用したくないという意識が表れていると思われる。

それでは、介護ベッド上で利用時のみ使用する「尿器、差込便器」ではいかがですかとの問いに対しては、図6よ



図4 あなたが要介護者になった時、排泄用具を使用したいと思いますか？

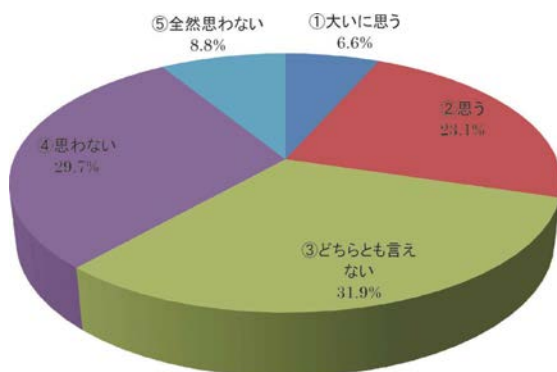


図5 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながら、排泄用具として「オムツ、パッド類」を使用したいと思いますか？

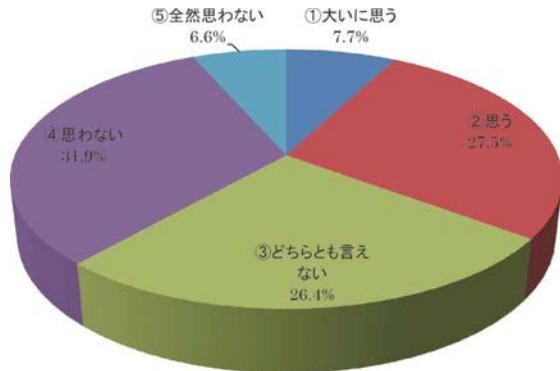


図6 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながら、排泄用具として「尿器、差込便器」を使用したいと 思いますか？

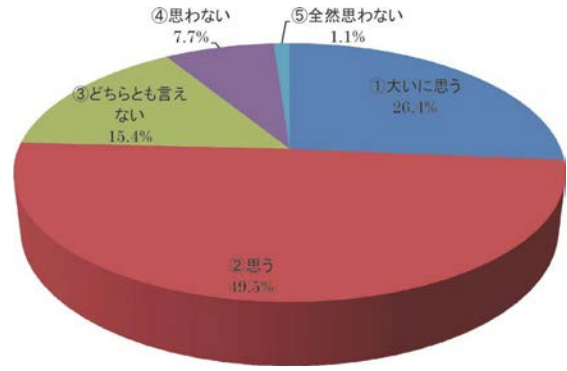


図8 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、できれば排泄施設「一般トイレ」を使用したいと 思いますか？

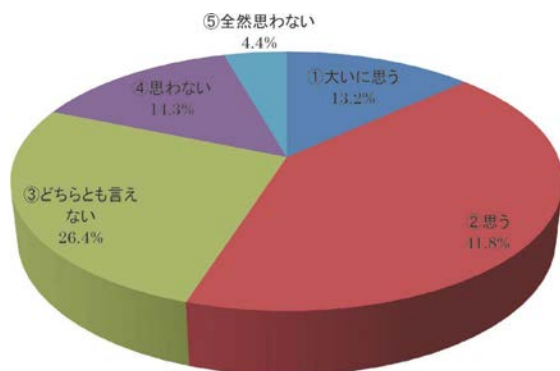


図7 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながら、排泄用具として「ポータブルトイレ」を使用したいと 思いますか？

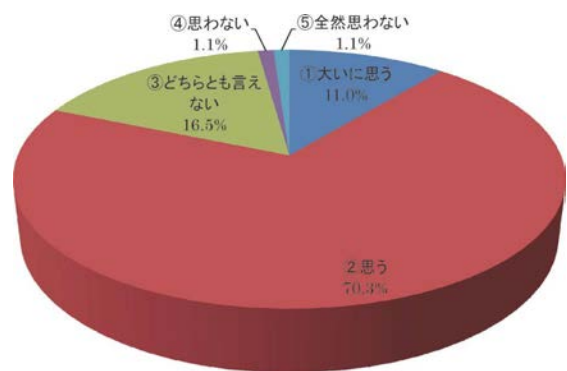


図9 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、排泄施設「一般トイレ」を使用することが無理な場合、排泄用具として「ポータブルトイレ」を使用されてもしょうがないと思いますか？

り、「どちらとも言えない」26.4%、「大いに思う、思う」35.2%、「全然思わない、思わない」38.5%の順で、「全然思わない、思わない」が「オムツ、パッド類」同様、最も多いものの、「大いに思う、思う」と「どちらとも言えない」が逆転し、身に付ける「オムツ、パッド類」よりは使用しても構わないかなという結果になっており、「尿器、差込便器」に対する抵抗感は多少減少するようである。

さらに、介護ベッドから移乗して使用する「ポータブルトイレ」ではいかがですかとの問いに対しては、図7より、「全然思わない、思わない」18.7%、「どちらとも言えない」26.4%、「大いに思う、思う」55.0%の順で、「オムツ、パッド類」、「尿器、差込便器」に比較して、「どちらとも言えない」は同じ割合ながら、今までの排泄用具では最も大きい割合を占めていた「全然思わない、思わない」が最も小さい割合になり、「大いに思う、思う」との回答が最も大きい割合に顕著に増加している。やはり、介護ベッド上で仰臥位、または側臥位で排泄行為をするよりは、人間らしく排泄行為がし易い、自尊心を傷つけない座位の姿勢で排泄行為をしたいという意識の表れであると思われる。

そしてさらに、身体的に介護されながらも移動ができるなら「一般トイレ」を使用したいといますかとの問いに対しては、図8より、さらに、「大いに思う、思う」75.9%の回答が増加し、「どちらとも言えない」15.4%、「全然思わない、思わない」8.8%と続き、やはり人間の尊厳が守られる個室を利用した排泄行為が行える「一般トイレ」の使用が望まれていることが当然のことのように推察される。

しかし、その「一般トイレ」が介護者に介護されながらも使用することが無理な場合には、排泄用具として「ポータブルトイレ」を使用されてもしょうがないといますかとの問いに対しては、図9より、「大いに思う、思う」81.3%、「どちらとも言えない」16.5%、「全然思わない、思わない」2.2%と続いている。図7では、「大いに思う、思う」55.0%であったが、やはり、「一般トイレ」の使用が無理であるのなら、せめて「ポータブルトイレ」の使用でとの意識の表れが割合を増加させていると推察される。

そして、その「ポータブルトイレ」も使用することが無理な場合には、「尿器、差込便器」を使用されてもしょうがないといますかとの問いに対しては、図10より、

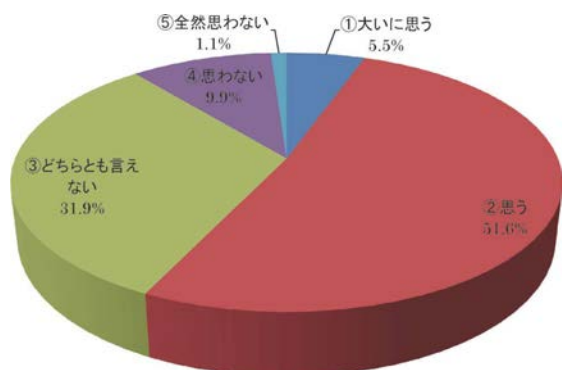


図10 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、「ポータブルトイレ」を使用することが無理な場合、排泄用具として「尿器、差込便器」を使用されてもしょうがないと思いますか？



図12 あなたは「排泄用具」について、介護者・要介護者とも精神的負担を感じていることから、人間の「尊厳」が守られるような、高齢社会に相応しい新しい排泄用具の開発の必要性を感じますか？

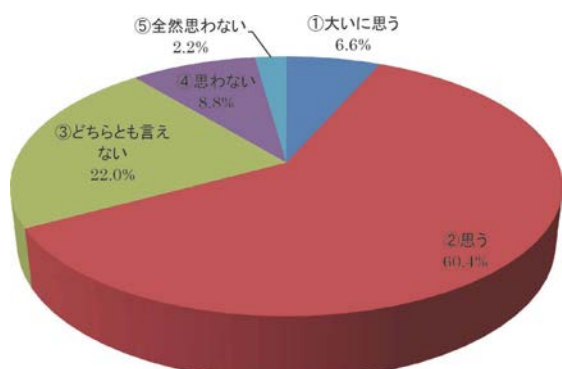


図11 あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、「尿器、差込便器」を使用することが無理な場合、排泄用具として「オムツ、パッド類」を使用されてもしょうがないと思いますか？

「大いに思う、思う」57.1%、「どちらとも言えない」31.9%、「全然思わない、思わない」11.1%と続き、図9の「ポータブルトイレ」に比較して、「大いに思う、思う」81.3%の割合はかなり小さくなり、その分「どちらとも言えない」16.5%、「全然思わない、思わない」2.2%の割合が大きくなっている。しかし図6の「大いに思う、思う」35.2%に比較すると大きい割合となっており、これらはやはり、「ポータブルトイレ」の使用も無理であるのなら、身体的負担は伴うものの精神的負担は「オムツ、パッド類」よりは小さい、最低「尿器、差込便器」位の使用はできないかとの意識の表れではないかと推察される。

さらに、「尿器、差込便器」さえも介護されながらも使用することが無理な場合には、要介護者にとって精神的負担が大きいといわれる「オムツ、パッド類」を使用されてもしょうがないと思いますかとの問いに対しては、図11より、「大いに思う、思う」67.0%、「どちらとも言えない」22.0%、「全然思わない、思わない」11.0%となっている。これは図10の「尿器、差込便器」の「大いに思う、思う」57.1%よりも10%近くも割合が大きくなっており、さらには図6の「尿器、差込便器」の「大いに思う、思う」35.2%よりも小さい割合を示す図5の

「オムツ、パッド類」の「大いに思う、思う」29.7%よりも37.3%も大きい割合を示している。これは、介護ベッド上で介護者から介護を受けながら排泄行為をしなければならないとしたならば、最も簡易な排泄用具で、要介護者・介護者両者にあまり身体的には負担を掛けさせない「オムツ、パッド類」が使用されてもしょうがないかなと思っている意識の表れではないかなと推察される。しかし精神的には要介護者にとってかなり負担が大きいといわれる「オムツ、パッド類」が大きい割合を示したことは、回答者自身が介護者から介護を受けながら排泄行為をするという状況の現実を直接的に感じていないからでの割合であり、実際に直面している要介護者の意識とは異なるものとも推察され、当該者からの意識調査の必要性を切に感じるところでもある。

最後に、要介護者・介護者両者とも「排泄行為」の介護に対して、かなりの精神的負担を感じていることから、要介護者の人間としての「尊厳」が守られるような、高齢社会に相応しい新しい排泄用具の開発の必要性を感じますかとの問いに対しては、図12より、「大いに感じる、感じる」90.2%、「どちらとも言えない」8.8%、「全然感じない、感じない」1.1%となっている。図3の「大いに感じる、感じる」94.5%よりは若干小さな割合にはなっているものの、9割を超えるかなり大きな割合となっていて、やはりこれから高齢社会に向けての大きな関心事となっていることを推察・理解することができる。

以上の結果から、これから高齢社会における排泄用具としては、人間の尊厳が守られる健常時同様な排泄用具の使用が望まれており、使用が無理な場合においても、なるべく健常時使用に近い排泄用具の使用が望まれていることが推察される。ただし介護者にはあまり身体的・精神的負担をかけたくなく、それらも望めない、無理であるとしたならば、最も簡易な排泄用具「オムツ、パッド類」が使用されてもしょうがないと思っていることが垣間見られるが、回答者が要介護者の立場の現実感にない結果とも推察されるところでもある。

また、アンケート調査の最後に、「具体的にどのような高齢社会に相応しい『排泄用具』の開発を望みますか?」との回答者の忌憚りの無い意見を求めた質問項目を設けたが、寄せられた主な意見は以下の通りである。

- ・自分の意思で、汚れたイメージのないもの
- ・要介護者に精神的負担のかからない用具は難しいと思う。介護者の配慮がないとダメだと思う
- ・たれ流しでも大丈夫なもの
- ・臭いを感じないで処理できるようなもの
- ・一人または介護者の手を借りても、オムツではないもの
- ・後始末に介護者の手をあまり煩わせないもの
- ・ある程度、個人のプライバシーが守られるもの
- ・明るいデザイン性のあるもの
- ・使い捨てオムツ、車椅子連結型トイレのようなもの
- ・一人で操作可能な介護ロボットのようなもの
- ・プライバシーを守られながら全自動排泄用具のようなもの
- ・目にふれない、臭わない、簡単なもの
- ・トイレまでの移動が楽にできる補助用具的なもの
- ・歩けないけれども、介護者に助けられながら自分でするので、座った場合冷たくないようなより良いポータブルトイレ
- ・介護者も要介護者も精神的、身体的苦痛を感じないもの
- ・用をたすのが楽しくなるようなもの
- ・尿臭・便臭をあまり感じないポータブルトイレのようなもの
- ・楽な方法で体力的に無理にならないもの
- ・安全安楽、恥ずかしいという気持ちを最小限にするもの
- ・ポータブルトイレに猫等の排泄用の砂を入れ臭いも抑えられ、介護者も掃除が簡単なもの
- ・オムツを使うことによる精神的苦痛を取り除くようなもの
- ・安価なおが屑トイレのようなもの
- ・いかにもトイレという形じゃないもの、オシャレなもの
- ・オムツを使用していることがわからないようなもの
- ・臭いなどの軽減でき、安価なもの
- ・介護ベッドの上で操作ボタン1つであまり人の世話にならずに排泄が可能なもの
- ・使いやすいもの
- ・障がい者専用トイレをもっと多くして欲しい

以上からも、これからの高齢社会における排泄用具と

して、介護者にあまり負担をかけず、操作性がよく人間の尊厳が守られ、自力で排泄が行え、防臭・消臭が可能であるような排泄用具の開発が望まれていることが推察される。

## 5. おわりに

高齢社会における排泄用具に対するアンケート調査を実施した結果、以下の結論を得た。

- (1) 要介護者のための排泄用具の必要性 (94.5%) は感じていても、自分自身は排泄用具をあまり使用 (58.3%) したいとは思っていない。
- (2) しかし、介護を受けながら使用しなければならない場合は、「一般トイレ (75.9%)」「ポータブルトイレ (55.0%)」「尿器・差込便器 (35.2%)」「オムツ・パッド類 (29.7%)」の順で使用したいと思っている。
- (3) しかし、使用したい上位の排泄用具を使用することが無理な場合は、「ポータブルトイレ (81.3%)」「オムツ・パッド類 (67.0%)」「尿器・差込便器 (57.1%)」の順で使用したいと思っている。
- (4) 結果、人間の尊厳が守られるような高齢社会に相応しい新しい排泄用具の開発が望まれている (90.2%)。

末筆ながら、アンケート調査にご協力いただいた八戸工業大学学園祭に来訪された八戸市民の皆様には心からの謝意を表す。

尚、本研究は、八戸工業大学特定研究助成費の補助を受けて進められたものである。

## 参考・引用文献

- 1) 小嶋, 安部, 太田, 栗原: 高齢社会に適応する排泄用具に関する市場調査報告, 八戸工業大学異分野融合科学研究所紀要第6巻, pp. 35-41 (2008)
- 2) 小嶋, 安部, 太田, 栗原, 増田: トイレ機能付き介護ベッドの開発における市場調査報告—福祉生活支援機器の開発に関する研究—, 八戸工業大学異分野融合科学研究所紀要第5巻, pp. 25-32 (2007)
- 3) 市川冽編集: 福祉用具のアセスメント・マニュアル, 中央法規出版 (1998)
- 4) 小嶋, 安部, 太田, 栗原: 高齢社会に適応する排泄用具の開発に関する研究, 日本人間工学会第49回大会講演集, pp. 220-221 (2008)
- 5) 小嶋, 栗原, 増田: トイレ機能付き介護ベッドの開発に関する調査報告, 日本人間工学会関東支部第36回大会講演集, pp. 41-42 (2006)

付録1 排泄用具に関するアンケート調査

平成20年10月18日、19日

排泄用具に関するアンケート調査

1. あなたの性別は？  
① 男性 ② 女性
2. あなたの年齢は？  
① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代 ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ それ以上
3. あなたは高齢社会において、要介護者のための「排泄用具」の必要性を感じますか？  
① 大いに感じる ② 感じる ③ どちらとも言えない ④ 感じない ⑤ 全然感じない
4. あなたが要介護者になった時、排泄用具を使用したいと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
5. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながら、排泄用具として「オムツ、パッド類」を使用したいと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
6. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながら、排泄用具として「尿器、差込便器」を使用したいと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
7. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながら、排泄用具として「ポータブルトイレ」を使用したいと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
8. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、できたら排泄施設「一般トイレ」を使用したいと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
9. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、排泄施設「一般トイレ」を使用することが無理な場合、排泄用具として「ポータブルトイレ」を使用されてもしょうがないと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
10. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、「ポータブルトイレ」を使用することが無理な場合、排泄用具として「尿器、差込便器」を使用されてもしょうがないと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
11. あなたが要介護者になった時、介護者に介助されながらも、「尿器、差込便器」を使用することが無理な場合、排泄用具として「オムツ、パッド類」を使用されてもしょうがないと思いますか？  
① 大いに思う ② 思う ③ どちらとも言えない ④ 思わない ⑤ 全然思わない
12. あなたは「排泄用具」について、介護者・要介護者とも精神的負担を感じていることから、人間の「尊厳」が守られるような、高齢社会に相応しい新しい排泄用具の開発の必要性を感じますか？  
① 大いに感じる ② 感じる ③ どちらとも言えない ④ 感じない ⑤ 全然感じない
13. 具体的にどのような高齢社会に相応しい「排泄用具」の開発を望みますか？  
〔 〕